

INFORMATION Book

中央公民館
図書室からの
お知らせです

ほん 大好き



中央公民館図書室 ☎42局7200番

今月新しく入りました。

※1月の新刊は、4日(金)からの貸出となります。

📖 一般の本

- ・グラスバードは還らない (作=市川憂人)
- ・時限感染 殺戮のマトリョーシカ (作=岩木一麻)
- ・ふたりぐらし (作=桜木紫乃)

📖 子どもの本

- ・スタンリーとちいさな火星 (作=サイモン・ジェームズ)
- ・あしによきによきときょうりゅう (作=深見春夫)
- ・ウインナさん (作=YUMOCAM)

図書室からのお知らせ

中央公民館内のこどものとしょしつで、子どもを対象としたお話の会を行います。親子で聞きに来てみませんか。

- とき 1月12日(土)午前11時から
- ところ 中央公民館(こどものとしょしつ)
- 問い合わせ 中央公民館まで



中でもこの本がオススメです。



信長の原理

作=垣根涼介

織田信長の飽くなき渴望。家臣たちの終わりのなき焦燥。焼けつくような思考の交錯が、ある原理を浮かび上がらせ、すべてが「本能寺の変」の真実へと集束してゆく。

まだ見ぬ信長の内面を抉り出す、革命的歴史小説!

キミワリーナがやってくる

作=ベンジー・デイヴィス

サルを連れのおじさんが、手回しオルガンをまわしながら歌います。「きっと今夜くるくる、キミワリーナがやってくる。君の家にくるくる、君の後ろをついてくる…。」町はあやしい雰囲気にもまれて、あちこちでキミワリーナを見たという人があらわれますがー。



二 ユーギリランドの子育てで支えてある。頑張る詩よりと書かれてはいるお母さんたちに読んでほしい。散らかった部屋、汚れた窓ガラス、人に見られたらなんて言われるか。今日、私は何をしていたんだろう? でも、こう考えれば。今日一日、私はこの子のためにすごく大切なことをしていたら。自信をもって

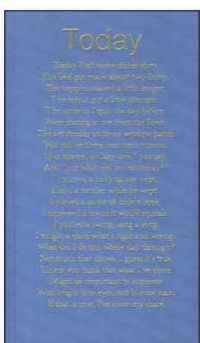
Today (今日) 訳=伊藤比呂美

字 を読むことも書くことも出来なかった少年は心の思い出をマッチ箱につめ日記にした。イタリアから父が働きにいつているアメリカへ家族で渡ったが、壮絶を極める貧乏生活。家族が思いを込めて少年を学校に行かせてくれたおかげで、読み書

マッチ箱日記 作=ポール・フライシマン

本は知識を深めるだけでなく、人と人とのつながりを広げてくれます。新たな本との出会いは新たな人との出会いの始まり。広がる本だでは、新たな本との出会いの場として、毎月おすすめの本を2冊紹介しします。今月の紹介者は金子美代子さんです。

広がる本だ



言える大事な時間を過ごしたんだと。介護をしている人たちが疲れた時にも読んでほしい。読み人知らずの詩だが人を慰め励ましてくれる役に立つかもしれない。この詩はネット上で静かに広がって流布していったそうです。



さができるようになる。マッチ箱に入れたその品々は、手に取れば少年時代の思い出がよみがえる大切なものばかりだった。セピア色のやわらかい絵が思い出を物語る。大人にも是非読んでほしい。すばらしい絵本である。

吉村薬剤科長の

調子はいかが？

くらで病院 ☎42局1231番

くらで病院スタッフ
からの健康
アドバイスです



先日テレビ番組でインフルエンザの新しい薬が出たと聞きました。
新しい薬は予防にも効果がありますか？。(54歳・女性)

インフルエンザは、主に冬期

に流行する呼吸器ウイルス感染症で、通常は数日から約1週間の経過で治癒に向かうことが一般的です。しかし、高齢者や基礎疾患を持つハイリスク群と呼ばれる方がインフルエンザにかかると、肺炎や心不全などの合併症により死に至ることも稀ではありません。

インフルエンザの予防にはインフルエンザワクチンの接種が有効です。インフルエンザワクチンを接種してもインフルエンザに絶対にかからないということではありませんが、わが国の研究では、65歳以上の高齢者で「死亡回避」80パーセント以上、「発病予防」34から55パーセントという報告があります。予防には、まずはインフルエンザワクチンの接種をおすすめします。

新・抗インフルエンザ薬「ゾフルーザ錠」発売

2018年3月に新しい抗インフルエンザ薬「ゾフルーザ錠」が発売されました。これまで使われていた「タミフルカプセル」や「イナビル吸入剤」は

感染後に細胞の中で増えたインフルエンザウイルスが細胞から外に出るプロセスを阻害するものでしたが、「ゾフルーザ錠」はウイルスそのものが細胞の中で増えるのを防ぐのが特徴です。これにより、①1回の服用で治療が完結②インフルエンザ感染後48時間以上経過しても服用可能③A型・B型どちらのインフルエンザにも効果あり④腎機能・肝機能障害があっても服用可能⑤主な副作用は下痢や肝機能検査値の上昇

異常などの特徴があります。ただし、体重10キログラム未満の小児は服用できない、予防投与の適応はないなどのデメリットもあります。

「タミフルカプセル」小児への投与が可能に

今シーズンのインフルエンザに関するトピックスとして、「タミフルカプセル」が10代の小児に使用可能となった点があります。これは、これまで「タミフルカプセル」の副作用の可能性が指摘されていた「異常行動」が、インフルエンザウイルス感染症そのものによることが示されたためで、厚生労働省は、小児・未成年者において、インフルエンザ発症後に薬の服用の有無にかかわらず、「異常行動」などの精神神経症

状が現れることがあるため、診断から2日間はないとされるべく1人にさせず、戸建て住宅の場合にはできるだけ1階の部屋で療養させるように保護者に対して注意を呼びかけています。

10代の小児に対する治療の選択肢が広がったことは朗報で、「イナビル吸入剤」をうまく吸入できない小児には投与できる薬がなかった昨年度までとは違い、「タミフルカプセル」と新薬の「ゾフルーザ錠」という選択肢が増えたということになります。ただし、保護者の方はこれまでと同様に、お子さんに対する十分な観察と配慮をお願いします。



新しい抗インフルエンザ薬「ゾフルーザ」には、ウイルスそのものの増殖を防ぐ効果がありますが、予防投与には適していません。予防にはインフルエンザワクチンの接種をおすすめします。

「アドバイザー」

吉村昌克・よしむらまさかつ・昭和61年福岡大学薬学部卒業。昭和62年鞍手町立病院勤務。平成27年4月より、くらで病院薬剤科長。